

# ヨコハマ人・まち 第10号

～まちの人がまちをつくる～

この情報誌は、パートナーシップのまちづくりを進めるため、趣旨に賛同して集まった市民と横浜市都市計画局企画調査課でつくっています。

## 地域の資源を生かして

### - 西部地域のまちづくり

#### 横浜「西部地域」の特色

ここで言う西部地域とは、正確には横浜市の南西部にあたる広い地域をさしています。

保土ヶ谷周辺から、郊外には戸塚・旭・瀬谷といった農地・樹林地の多く残る地域が含まれます。市内でも昔ながらの風景や面影を比較的多く残す里山的景観は、人の心を和ませるのみでなく、いろいろな市民活動を育んできました。1950年代後半～70年代前半（昭和30年～50年）にかけて、郊外地域では急速な人口増加が起きました。一戸建て住宅、共同住宅、アパート、マンションの建設が進み、道路・商業施設・公共施設等（インフラ）の整備が追いつかない状況でした。



地形的には斜面が多く、あちらこちらで部分的な開発が進んだため、農地・樹林地が残る中で、住宅地が相互に分断される という問題もありました。

西部地域のまちづくりは、都市的整備の遅れを克服しながらも、地域の資源ともいべき緑の豊かさや歴史的資産をいかにうまく生かしていくかがカギであるといっても過言ではないでしょう。

#### 自然と古民家を公園として生かす

西部地域には、多くの人々がイメージする港ヨコハマとは違い、自然いっぱいの地域が宅地化や開発の波の間に残されています。そこには、水田や畑、里山として使われていた雑木林などが、都市の中の貴重な自然環境として息づいています。

とはいえ、この環境を大都市圏の中でいつまでも保全することは難しいのですが、その一つの方法として公園事業があります。自然系の公園は、今や都会のオアシスとして欠かすことの出来ない存在となっており、雑木林を持つ公園では、その維持管理のために、市民ボランティアによる下草刈りや間伐などの作業が行われる事例も多く聞かれます。

また、自然環境の維持管理だけでなく、公園施設として移築整備された古民家を拠点に、特色のある活動をしている公園もあります。しかもその古民家を市民が管理運営しているという点が、大きな特徴となっています。

西部地域には、こうした公園の代表的なものとして、舞岡公園、長屋門公園、天王森泉公園があります。

## 舞岡公園 (戸塚区舞岡町, 28.5ha)

舞岡公園は、地下鉄舞岡駅から徒歩 25 分、舞岡ふるさと村に隣接し、農の営みが色濃く映る里山や田園の環境を生かした公園です。ここでは、計画段階からの 10 年にわたる市民活動を土台に、平成 5 年の開園と同時に、「舞岡公園を育む会」が組織され、農にいそしみながら、市民が自然を保全する活動を展開しています。現在、田園体験区域、小谷戸の里(古民家、運営管理棟、作業棟、トイレなど)、雑木林の維持管理・運営を、約 300 人の会員からなる育む会が市から受託し、水田耕作や自然観察会など、さまざまな体験活動を、年間 1 万人以上のボランティアの参加を得て、行っています。



谷戸の中の田んぼで田植えを体験

## 長屋門公園 (瀬谷区阿久和東, 3.5ha)

瀬谷区と旭区のほぼ境に位置する長屋門公園は、計画段階からの住民参加を行い、古民家を移築した「歴史体験ゾーン」と呼ばれるエリアを整備しました。ここの管理運営業務を、地域の代表者などからなる運営委員会が、市から受託しています。日常の管理運営や行事の企画などは、近隣住民である「長屋門公園歴史体験ゾーン運営委員会事務局」の事務局長とスタッフの手により行われており、七夕コンサートや田舎一泊体験、一人語りの会など特色ある行事が数多く企画され、多くの来園者を集めて開催されています。またそれらの行事に際しては、多くの地域住民がボランティアスタッフとして協力し、運営を補助しています。



長屋門での一泊体験。7月～8月

## 天王森泉公園 (泉区和泉町, 3.5ha, 本誌第 3 号(平成 10 年 3 月発行)で紹介)

天王森泉公園は泉区の南端、戸塚区との境界部にあります。園内の古民家「天王森泉館」とその裏庭「湧水の森」は、市民組織である天王森泉公園友の会が、市から管理運営を受託して活動しています。

ここも公園づくりの当初から市民参加が行われ、整備期間中に自主的に運営準備会が発足しました。開園後は、準備会から発展した友の会の運営委員が、樹林地の管理や自然観察会、かるた会などの各種行事を企画し、ボランティアとしてかかわる会員や地元住民の参加により行事が運営されています。さらに、古民家の日常管理や来園者対応は、友の会が雇用した古民家スタッフ(有償ボランティア)により行われています。



天王森泉館でのかるた大会

これらの公園のように、行政からの業務委託により、市民運営が行われることで、より地域に密着した運営が実現でき、公園は単なる公共施設でなく、地域のまちづくりの核となる場として機能する場合があります。すなわち、利用者である市

民が本当に自分たちのための施設であると思える、使いこちの良き施設が実現しているのです。公共施設がより身近に、自分たちの地域のものとして認識されてくる結果、その施設の公共性、その環境の大切さまでも、地域で共有し、認識されるようになり、まちづくりの一つの動きが生まれてくるのです。



天王森泉公園のくわくわ森に堆肥場をつくりました

また、具体的な地域の核としての役割面では、地域密着型の活動が上げられます。公園情報紙の地域回覧や、自治会行事の受け入れ、公園行事の際の材料調達や人材協力など、周辺自治会町内会との協力を積極的に行っています。

さらに、歴史や環境教育などで、学習の場としての活用や、公園運営メンバーによる自然観察指導など、地域の小中学校との関係も持たれています。このような継続的で、横つなぎの活動により、新たにまちづくりに関心を持つ人も増えてきています。

舞岡公園、長屋門公園、天王森泉公園—これらの公園での活動は、公共施設の管理運営に市民がかかわる先進的な事例として、更なる可能性を探求しつつ、自然環境を守りながら、今日も多くの来園者を迎えています。

(天王森泉公園友の会会長 戸田浩司)

### 舞岡公園

アクセス：市営地下鉄舞岡駅より徒歩 25 分。JR 戸塚駅、市営地下鉄上永谷駅よりバスで京急ニュータウン終点下車、徒歩 1 分。有料駐車場有り。

連絡先：舞岡公園を育む会事務所  
TEL045-824-0107

### 長屋門公園

アクセス：相鉄三ツ境駅徒歩 18 分。三ツ境駅より戸塚駅行きバス「上阿久和」下車、徒歩 3 分  
連絡先：長屋門公園歴史体験ゾーン運営事務局  
TEL045-364-7072

### 天王森泉公園

アクセス：市営地下鉄下飯田駅、相鉄ゆめが丘駅より徒歩 30 分。市営地下鉄立場駅より湘南台駅行きバス「四ツ谷」下車、徒歩 20 分。戸塚駅または大船駅よりドリームハイツ行き終点下車、徒歩 15 分。

連絡先：天王森泉館事務局 TEL045-804-5133

## 天王森通信

1998年12月号  
No. 21  
発行所 天王森泉公園  
〒204-8514 東京都葛飾区天王森  
045-804-5133

### 天王森泉公園の自然紹介 パンフレット作り

平成9年11月に開園した天王森泉公園も、春も近く満2年を迎えようとしています。この公園には、クヌギやコナラの林が回り繞りめぐり、多くのドングリが散ります。昨年、みんなで林の中を歩いたりして遊ぶには、ヒトリスやアキノタムラソウほかのかわいらしい草花がたくさん咲きました。園内ではシジュウカラが囀り響き、ももには豊富な果実の採れどくさんのガンジボタルも飛び、夏はあじさいやヤマギソウが人目を惹きつけていました。

こんな自然観察活動の様子を皆さんに知ってもらい、理由療法や遊歩道管理でも役立つためにパンフレットを作ることにしました。幸い、「東京市環境緑地対策委員会」の交付を受けることができ、平成13年3月の完成を期しています。

募集要項やパンフレット作りに興味をお持ちの皆さんの参加をお待ちしています。

【10月～12年1月の行事】	
10月24日(日) 9:30～12:00 小規模旅行 秋の観察会(園の森) 観察会終了後、ドングリ工作をします。 持ち物 観察用具・記録帳(あれば)	11月 5日(日) 9:30～14:30 雨天決行 竹園工役 作業物 花袋・道具など 申込締切:11月30日 先着30名 持ち物 観察用具・花袋・オリジナル作品を持参する 募集要項の「チラシ」
11月 2日(水)祝日 9:30～14:00 雨天決行 園路作りと整備しよう 申込締切:11月30日 先着30名 園路300円 持ち物 観察用具・草履	11月 9日(水) 9:30～12:30 小規模旅行 野鳥観察会(遊水池のふも、森の奥) 持ち物 観察用具・記録帳(あれば)
11月14日(日) 9:30～15:00 雨天決行 天王森祭り 天王森館 11:30～3:00食 無料 今までの活動がビデオ上映、写真の展示 観覧料無料(10歳以上)、11歳以上、12歳以上:30～	12月 9日(日) 9:30～12:30 小規模旅行 クリスマスパーティー 申込締切:12月10日 先着30名 持ち物 観察用具・オリジナル作品を持参する 募集要項の「チラシ」

お問い合わせ先 天王森泉公園事務局 TEL045-804-5133

## 団地での地域の課題解決の試み

郊外地域に建設された大規模団地は、急速な人口増加の受け皿として大きな役割を果たしましたが、入居から 30 年近くが経過した現在、団地の老朽化や居住者の高齢化に伴って起きるさまざまな課題が見えてきました。これらを解決するための取り組みが進められています。

その事例を旭区の若葉台団地でご紹介します。

## 若葉台団地

(旭区若葉台。県住宅供給公社。昭和54年～入居。  
現在、約18,800人、約6,300戸)

若葉台団地は、東京都町田市に隣接し、東名高速道路横浜町田インターチェンジの近くにある、県住宅供給公社が開発した大規模な集合住宅団地です。昭和54年から入居が始まり、ほぼ完成しています。20年経た現在も建設が続いています。

現在、若葉台には15の管理組合と、それらを統括する管理組合協議会があるとともに、10の単位自治会が、若葉台という一つの連合自治会を形成しています。

昭和62年、「若葉台地区社会福祉協議会」が設立され、連合自治会との連携のもと、「福祉の街づくり」の取り組みの先頭に立ち、ソフト面から独自の活動に取り組んできました。

主な活動としては、旭区内の福祉施設から100名の高齢者を招いて、高齢者と中学生、住民が3人1組になって一日を過ごす福祉体験「まご(孫)こ(子)ろ(老)の日」を始めたのをきっかけに、地区社会福祉協議会の自主財源確保の場になっている「チャリティーバザー村」や、団地内にある8つの老人会と、これに参加していない高齢者が一同に集い、サークル活動を発表する「高齢者交流会」などを、順次、開催しています。また、団地内の障害者の団体である、脳血管障害者グループ「イツワ会」、青年学級「ピクニックの会」、就学障害者グループ「テクテクの会」などともネットワークしています。

そして、住み慣れた場所を離れて団地に移り住んできた高齢者を若い世代の住民で支えようと、ふれあい給食・配食サービスの「若葉と森と愛」、介護・家事援助の「ホームヘルプ若葉台」、一人暮らし・虚弱高齢者を対象とした「ディケアぬくもり」や、「布絵本」、「若葉台手話の会」、「拡大写本の会」、また、移送サービス等を主とする男性ボランティアグループ「のこのこ会」などが生まれてきています。

若葉台では、連合自治会、管理組合協議会が、早い時期から、入居者数の多い団塊の世代を考慮し、「21世紀の街づくりをめざす」をスローガンに、「高齢者に住みやすいまちづくり」に着手してきました。連合自治会では、地区内の建物入口の段差解消を、また管理組合協議会は、高齢者の住宅改善の指針案の提案や、階段の手すりを設置するなど、ハード面での役割分担ができてきました。(管理組合協議会は、

この団地だけの組織で、その事務局を団地内の共同施設の維持管理などをする「(財)若葉台管理センター」(設立：県住宅供給公社)が担当していることから、ハード面の問題も処理しやすい仕組みになっています。)

すべての人にとって住みやすく、やさしいまちづくりをさらに推進していくために、管理組合協議会、連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員協議会、管理センターが参加して、3年前に「若葉台やさしい街づくり推進委員会」が設置され、ソフト面とハード面が一体となった取り組み体制ができあがりました。推進委員会には、団地内のすべての組織が入っているため、街の改善等の問題も処理しやすくなっており、団地内にある病院の周囲の歩道を広げ、車イスなどの通行がしやすいようにするなど、人にやさしい街づくりを進めてきました。



車椅子も通りやすいように歩道の幅が広げられました

まちづくりは、「人による」と言われます。若葉台団地では文化やスポーツなどのイベントには「スポーツ・文化村」、各まつりには「まつりの会」が実務を担当するなど、様々な単位のグループが活発に活動しています。このようなユニークな活動により、団地の居住者相互のコミュニケーションの活性化がはかれ、これが自治会や地区社会福祉協議会に「人」を送り出す原動力になっているように思われます。

(横浜プランナーズネットワーク

谷口 和豊、内海 宏、櫻井 悦子)

## 既存施設を活用した様々な取り組み

地域でのまちづくり活動には活動の拠点となる施設が必要ですが、西部地域には地域の既存施設を有効利用して、活発に活動を展開している例が比較的たくさんあります。ここでは、そのうち「生活協同組合コープかながわ保土ヶ谷福祉グループひなげし」(略称「ひなげし」)、日向山小学校ふれあいルーム(略称「ふれあいルーム」)といった2つの代表的な活動例を紹介します。

### ひなげし(保土ヶ谷区)

「ひなげし」は、平成4年4月から、保土ヶ谷区天王町にある「コープかながわ天王町店」の集会室を利用して、月1回70歳以上の高齢者約20人を対象に会食サービスの活動を行っています。毎回、ゲームを楽しんだり、歌をうたったりして、お年寄り同士の交流を楽しんでもらっています。グループのメンバーは50代を中心に、約20人の主婦層によって支えられています。利用者、担い手とも「コープかながわ」の組合員が中心となっているため、集会室のある天王町・岩間町などの地元に限らず、上菅田町や仏向町など広い範囲の人が参加・利用している点が特徴となっています。



集会室での会食

集会室の規模から、対象者、担い手が一緒に会食する人数にはおのずから制約があり、配食サービスへの取り組みも視野に入れていきます。平成9年からは、障害者施設で週1回40食の給食をつくる事業にも取り組んでいます。また、コープかながわの集会室を使わせてもらっているため、グループ専用の場所と違い、調理器具や食器などの置き場所にも苦

勞し、活動をこれ以上上げられないといった問題点も抱えています。

### ふれあいルーム(瀬谷区)

ひなた山地区のまちづくりについては、本誌創刊号(平成9年11月発行)ですでに紹介しましたが、今回は日向山小学校で行われている「ふれあいルーム」に焦点をあわせて紹介します。



小学校のランチルームを活用したふれあいルーム

「身近な地域で集える場所がほしい」というひなた山地区の長年の願いが、今回、日向山小学校の協力により実現しました。

このスペースは、日向山小学校のランチルームを学校側が使わない時に地域に開放、自治会などの会議やサークル活動に利用するものです。平成9年12月開設以来、今年5月までの18か月間に合計222回(月平均約12回)利用されました。内訳では、会議利用は121回、サークル利用は101回で、利用時間は午前39回、午後96回、夜間87回といった具合です。

このほか、地域にはスーパーマーケットや農協支所などが地域の会議や活動発表の場として開放しているスペースがあり、活動拠点として利用する可能性を探ってみてはいかがでしょうか。

(西部方面の会事務局 内海 宏)

## 住民参加による都市計画マスタープランづくり

—舞岡地区・踊場地区まちづくりプランの場合—

平成4年の都市計画法の改正により、市町村の都市計画に関する基本的な方針（＝都市計画マスタープラン）を、住民参加で定めることとなりました。横浜市では、市域を対象とする全市プラン、行政区を対象とする区プラン、中学校区程度のまとまりある地区を対象とする地区プランの3段階で策定を進めています。

ここでは、現在、戸塚区で進められている舞岡地区と踊場地区の地区プランについて、戸塚区区政推進課の職員の方にご紹介いただきます。

### 戸塚区の地区プランの特徴は？

戸塚区では、「身近な地域のまちづくりプラン（地区プラン）」づくりに取り組んでいます。これは、地域住民と区役所が協働でプランをつくり、その後のまちづくりにつなげていこうというもので、次のような特色があります。

- (1) 地域住民がよく知っている範囲（たとえば連合町内会の区域）を対象区域とする
- (2) 地域の身近な課題や地域固有の問題点の解決から出発する（テーマ型）
- (3) 地域住民が直接参加し、策定する（協力型）
- (4) 実現に向けてのプログラムをつくる（戦略型）

### 舞岡地区って、どんなところ？

舞岡地区は、地域の73%が市街化調整区域で、豊かな自然環境にめぐまれた所です。一方、副都心である戸塚駅周辺にも近く、地区の中心には地下鉄舞岡駅、また、地区内には都市計画道路があるなど、今後は都市化が進むことも考えられます。そこで、舞岡の環境資源と共存、調和する都市化とは、また、高齢化社会の中で、「住む」ための環境をどう維持、改善していくか、といった課題を考えるため、平成8年7月、地域住民の参加による「舞岡まちづくり検討会」が発足しました。

### まちづくりプランの検討

検討会は、自治会町内会の関係者、舞岡ふるさと村の関係者、一般公募の約50人で構成され、さまざま

な立場から地域の課題や問題点、将来への展望、また夢について、区役所とともに検討を重ねました。こうした活動については、まちづくり通信の発行や地区懇談会での経過報告などにより、積極的にPRを行っています。



地区内も歩いて、検討しました

作成したプラン案は、舞岡地区の全世帯に配付し、意見交換会の開催や文書などにより住民の方々の意見を伺いながら、地区プランの原案としてまとめました。

### 舞岡地区プランの内容

#### プランの骨格

将来像	基本目標	まちづくりの方針
豊かな環境資源のあるまち、誰もが暮らしやすいまち・舞岡	豊かな環境資源を活かしたまちづくり	谷戸景観の保全 歴史資源の保全、継承等
	生活中心を持つまちづくり	舞岡駅周辺のまちづくり 交通環境、歩行者軸線等
	安心、安全に暮らせるまちづくり	バリアフリー、福祉活動 災害に強いまちづくり等
	利便性、快適性の高いまちづくり	幹線、地区幹線道路整備 歩行者ネットワーク等

### 踊場地区は変わる?!

踊場地区は、戸塚駅周辺地区に近接する、住宅地を中心とした既存市街地です。市営地下鉄の延伸による踊場駅の開設や、幹線道路である横浜伊勢原線の整備の進ちよくなどにより、まちの変容が予想されています。また、地区の中央には都市計画道路桂

町戸塚遠藤線が計画されており、この路線の事業をどう進めていくかが大きな課題となっていました。さらに、防災や道路交通問題などに対する地域住民の関心も高く、これらの課題を議論し、将来のプランづくりを進めるため、平成8年9月に「踊場まちづくり検討会」が発足しました。

検討会は、自治会町内会関係者及び一般公募の38人で構成されています。舞岡地区同様、区役所とともにまちづくりプランの検討を進め、構成員自らも地域住民への広報・周知活動を積極的に行いながら、地区プラン案をまとめました。



地図を見ながら課題や夢を検討しています

## 踊場地区プランの内容

### プランの骨格

将来像	基本目標	まちづくりの方針
多世代が 生き活き と暮らせる 安心・安全のまち ・踊場	良好な住環境の形成	地域活動の推進 良好な街並み・安全な住環境づくり 等
	災害に強いまちづくり	災害に強い都市環境の形成 身近な防災環境の整備 等
	踊場駅周辺のまちづくり	駅周辺の土地利用 駅周辺の基盤整備 等
	快適で利便性の高いまちづくり	幹線・地区幹線道路の整備 バス路線の拡充 等

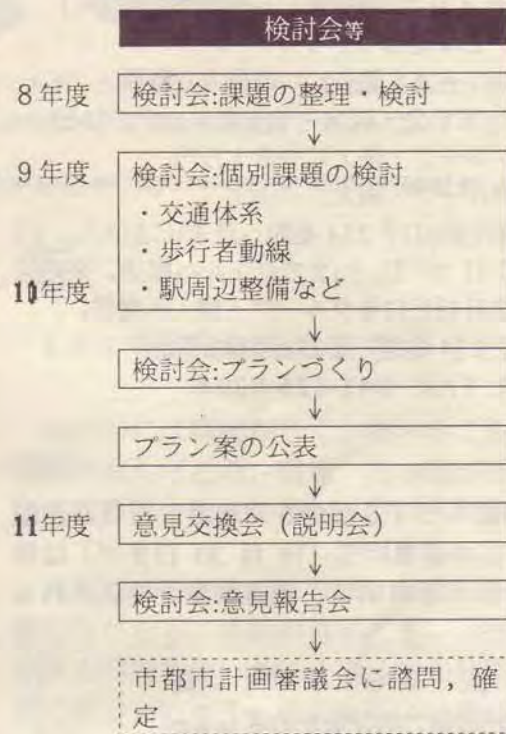
### 今後の予定は？

これらのプランは、都市計画マスタープランとして位置づけるため、横浜市都市計画審議会へ諮問し、確定します。

今回の検討会の活動をきっかけに、地域と行政の

より密接な協調関係、また、信頼関係が生まれており、これらの関係を基盤とした地域のまちづくりの一層の推進が期待されます。

### 策定スケジュール（舞岡地区・踊場地区の場合）



また、身近な地域のまちづくりプランとして、両地区のほか、名瀬、上矢部地区でも、地域の皆さんと検討作業を進めているとともに、戸塚区マスタープランについても検討を進めています。戸塚区のまちづくりにご意見、ご提案などをお待ちしています。

### 戸塚区区政推進課企画調整係

TEL045-866-8328 FAX045-881-0241

Email : [totsuka@city.yokohama.jp](mailto:totsuka@city.yokohama.jp)

ホームページ [http://www.city.yokohama.jp/me/](http://www.city.yokohama.jp/me/totsuka/index.html)

[totsuka/index.html](http://www.city.yokohama.jp/me/totsuka/index.html)

お住いのある区あるいは地区で、都市計画マスタープランの説明会や懇談会がある場合には、皆さんも、是非、参加して、自分のまちの将来を考えてみてはいかがでしょうか。

都市計画マスタープランについてはこちらをご覧ください  
ホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/tokei/toshimasup/index.html>

## お知らせ

### 山手フォーラム企画募集

市民活動発表の場「山手フォーラム」への参加グループ・個人を募集します。

【開催期間】12年4月27日(木)～5月16日(火)

【利用施設】山手234番館ギャラリー・レクチャールーム

【利用期間】1グループ・個人につき最大6日間

【発表形式】自由(展示会・講演・ワークショップなど)

【資金援助】1グループ・個人につき1万円

【採用数】3グループ・個人

【応募方法】応募用紙(山手234番館へ請求)に記入し、12年1月20日(木)までに下記へ郵送。※結果は2月初旬に各グループ・個人へ発送。

【問合せ】山手234番館 〒231-0862 山手234-1  
TEL/FAX 045-625-9393

市民や企業のまちづくり活動を対象とした賞が創設されました。今回の募集期間(11月30日まで)は終了しましたが、来年5月頃に、審査結果が発表される予定です。

### 第1回横浜・人・まち・デザイン賞 ～21世紀の魅力的な街をめざして～

横浜は、市民や企業とともにまちなみ景観づくりやまちづくり活動など様々な取り組みによって、その魅力を高めています。

2000年を迎えるにあたり、横浜市では、まちづくりへの取り組みを顕彰する新しい賞として、「横浜・人・まち・デザイン賞」をスタートします。

この賞では、優れたまちなみ建築物(まちなみ景観部門)やまちづくりに関する活動(まちづくり活動部門)を、市民の皆さんから推薦されたものの中から顕彰します。(各部門5件程度)

担当：都市計画局都市デザイン室内

「横浜・人・まち・デザイン賞」事務局

TEL.045-671-3850

市内初、市民の自主運営によるリサイクル活動の拠点  
横浜市神奈川リサイクルコミュニティーセンター  
「エコライフかながわ」がオープン!

11月27日、地域でのリサイクル活動の拠点として、「エコライフかながわ」(愛称)が開館しました。建物も旧二ツ谷公設市場を改修、リサイクルしています。

当日は、記念イベントとして、「パートナーシップによる地域環境づくり懇談会」を開催。同施設の市民ボランティアによる事業運営組織-神奈川リサイクルコミュニティーセンター運営活動機構がその成り立ちやパートナーシップ推進モデル事業による取り組みを報告するとともに、山手234番館や今井及び今宿地区センターなどの関係者から、「互いに尊重することが大切」、「市民側の「責任」が重要」、「行政の役割はどこまでか」など、市民と行政とのパートナーシップのあり方が熱心に報告されました。

また、工房は、古布のさき布織りやエコそうりづくりなどを体験する人であふれていました。

毎日、いろいろな事業が計画されています。それを支えるボランティアも募集しています。是非、一度お出かけください。(福田)

所在地：神奈川区平川町3-6

問合せ：TEL045-413-3196 FAX045-488-3463

### 第9号の記事に、情報提供がありました!

前回、北部地域のまちづくり活動グループ等をご紹介しましたところ、「都筑区にはもっとたくさんのグループがあり、紹介冊子も発行されています」と、市民の方から情報提供がありました。冊子の名前は「都筑区生涯学習グループ紹介」。区役所地域振興課が2年に1回程度発行しているもので、まちづくり・子ども・スポーツ・福祉・文化に分類して活動団体を紹介しています。

同様の冊子を発行している区もいくつかあります。冊子の有無や活動グループの情報は、各区の生涯学習支援センター、または生涯学習相談コーナーにお問い合わせください。

情報提供ありがとうございました。(福田)

ホームページをリニューアルしました!

「ヨコハマ 人・まち」のホームページをリニューアルしました。イベント情報やリンク集を充実させ、まちづくりの情報センターをめざします。新しいURLは、

<http://www.city.yokohama.jp/me/tokei/hitomati/>

都市計画局のホームページもご利用ください。横浜市の都市計画に関する情報がご覧になれます。

<http://www.city.yokohama.jp/me/tokei/>

編集：「ヨコハマ 人・まち」編集会議

発行：横浜市都市計画局企画調査課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3512 FAX 045-663-3415

次号では、南部地域を取りあげます。お楽しみに。

本文中、特記のないものは編集会議の文責によります。

編集会議はどなたでも参加できます。ご意見、ご感想をお聞かせ下さい。

第10号編集メンバー：

赤松 彰利、秋元 康幸、金成 耕太郎、川崎 あや、園部 弘明、谷口 和豊、福田 美子